

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700085
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム春の風
所在地	大洲市長浜甲570番地
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との共生、つながり、交流が図れるように地域交流スペース『ひだまり』があり、各種ボランティアの発表の場となっている
また、『ひだまり』において1階と2階の利用者全員が集まって機能訓練体操を和気あいあいと行っている
重度になっても最後までお風呂に入れるように機械浴の装置を完備している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長浜高校横の住宅街にある事業所の近くには市役所支所や保健センター、消防署、商店街などがあり利便性に優れている。海も近く、事業所の窓から海の絶景や高校のグラウンドでスポーツをする様子を眺めることができる。平成26年3月に開設した1年目の事業所は、地域交流スペースを活用して、地域住民やボランティア等との交流を盛んに行っている。管理者や職員は明るく活気のある事業所を目指し、家庭的な雰囲気大切に、普段の声かけを丁寧に行ったりする取組を日々実践している。職場全体が明るく、レクリエーションなどで利用者から歓声が上がると楽しく、安心して過ごせる雰囲気作りをしている。利用者には歩行訓練や立ち上がりのリハビリ、フットケア、公文式の学習療法を取り入れている。また、近くにあるグループホーム等との交流があり、地域内のグループホーム同士での見学など研修にも取り組みサービスの向上に努めており、これからの発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム春の風

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)
氏名 徳森 利弘

評価完了日 平成 27 年 1 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を施設内に掲示して意思統一を図っている 理念である「ぬくもり、喜び、笑顔」には利用者さんに対する思いが込められています 施設が孤立することなく地域と共存していくために「地域交流室ひだまり」を通して理念が浸透していくように今後も努力していきます</p> <p>(外部評価) 「ここにはぬくもりがあり、喜びがあり、笑顔がある」という誰にも分かりやすい基本理念を開設時に作成している。理念は玄関や地域交流スペースなどに大きく表示しており、職員は日々確認することができる。また、管理者と職員は利用者への普段の声かけや関わりを丁寧に行うなど、理念の実現に向けて職員一丸となり取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との交流が図りやすいように、地域交流スペースを設けており平均1か月に4回くらいの利用がある 内容としては地元近辺のサロンの活用、ボランティアの歌や演奏、読み聞かせ、紙芝居、他に学童保育、高校生のサークルなど多岐にわたり利用者さんと共にスタッフも参加して充実した時間を過ごしています</p> <p>(外部評価) 事業所の地域交流スペースは地域住民に認知されており、サロンや読み聞かせなどのボランティア、児童保育、高校生のサークル活動など幅広く利用されており、利用者と職員も一緒に参加することも多く、地域住民との交流を深めている。利用者が事業所周辺を散歩する時にも挨拶をするなど、日常的な交流も行われている。高校生のインターンシップを受け入れたり、事業所の隣にある長浜高校の運動会や文化祭、水族館を見学に行くなど、相互に交流をしている。また、事業所のことを含め法人では定期的に広報誌を発行しており、地域住民へも配布し活動を周知している。</p>	地域交流スペースを活用した地域住民への情報提供が重要であり、認知症に関する勉強会の開催やパンフレット等を置くなどの情報発信にも役立てていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域交流スペース利用時に施設の案内や見学をして頂き利用者さんとの交流も積極的に行っており、認知症の方々との触れ合いの中から理解を深めて頂いている また、法人の四季報やGHの広報誌「ひだまり」で広くGHの生活の様子を知って頂いている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、現状・活動報告やヒヤリハット報告などを通じて外部の方々から貴重なご意見を頂き参考にさせて頂いたり今後の活動につなげていくよう努力しています</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は年6回開催され、活動報告や地域交流スペースの利用状況、ヒヤリハットの報告、参加者からの意見を求めるなど運営の透明性や情報の公開に努め、意見をいただく形が整えられている。会議には利用者や家族、民生委員、婦人会長、市担当者等の多くの参加が得られている。警察からの特殊詐欺や消防署の脱水症などの話を、会議と合わせて行う工夫をしている。また、同時期にできたグループホームと協力し合い、相互の運営推進会議に参加するなどの取組みもしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議の時に利用者さんの状況を報告し、助言を頂いている 不明な点は電話などで相談している</p> <p>(外部評価) 市高齢福祉課に介護保険制度など分からないことを尋ねたり通知事項を確認したりしている。生活保護の担当者と連絡を取り相談をすることもある。大洲市にはグループホーム連絡会があり、研修会に参加したり順番での事業所内の見学、相互の情報交換などの交流をしている。また、平成27年4月から介護相談員の受け入れを予定している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行い拘束をしないケアに取り組んでいる 帰宅願望の際には職員と車いすや徒歩での散歩に出たりして対応している 利用者さんの安全のため、必要時、施錠している</p> <p>(外部評価) 事業所では拘束をしない方針で、法人で作成した身体拘束に関する資料を回覧することで勉強を重ねている。声かけにも配慮し、利用者の見守りを徹底することで気分を落ち着かせるなどの対応もなされている。玄関は夜間や必要時に施錠しており、利用者の安全性の確保に努めている。荷物をまとめるなど帰宅願望のある利用者には、散歩を一緒に行うなどの対応をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修にて虐待について学んでいる 虐待を見逃さないように注意を払って虐待を防止していきたい 言葉による虐待についても注意していきたい	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について学ぶ機会があれば積極的に参加して学ぶ機会を持つようにしている 成年後見制度は現在1名の利用者が利用されている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に担当（管理者）が丁寧に説明を行い同意を得ている 不安や疑問に答え、契約の前に施設見学をして頂いたりしている。改訂時、文書と口頭による説明で了解を頂いてサインしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時に、ご意見やご要望などを聞かせて頂いている 家族会でも家族同士で話が出来様な場を作っている 入所契約時に重要事項説明書に外部への連絡が出来様に記載していることを説明している	
			(外部評価) 意見箱の設置はないが、面会時には職員から家族に声をかけたり、電話で意見をもらったりするなど、意見を聞くよう努めている。家族会が組織されており、家族の集まりの中で出された要望などを聞き、意見は連絡ノート等を活用して職員間で共有をして、利用者への関わり方の改善ができるように検討して対応している。また、ひだまり新聞を毎月発行しており、職員が一筆添えて送付している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 月に1回法人全体の職員会と毎朝・夕の申し送りで情報を共有し、提案があれば職員や本部と話し合い、個別の意見も改善へとつなげている</p> <p>(外部評価) 毎月の職員会や毎朝夕の申し送りなどで職員から意見を聞き、備品の購入や仕事の流れ、利用者への関わり方などを改善することに繋がっている。意見を出しやすい雰囲気づくりができており、管理者は職員から意見を聞くことを常に心がけている。新人職員には法人として実施している新人研修のほか、ベテラン職員の指導やレポート提出でのやりとりを行う教育システムがあり、職員も外部研修や別の事業所を知る相互研修などに参加することができる。また、職員は業務管理シートを使用し目標を立て、サービスの向上に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 事業計画に基づき業務管理シートを作成し各自スタッフが目標を立てている 目標に対し、しっかりと業務ができたかを人事考課表で評価している 職員の努力や実績により、昇格する事もできる。産休や育児休暇等も整備されていて、再度働くことができる。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の実施する研修への参加や市の主催する研修、その他の研修への応募要項を回覧して参加を促している</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 市のグループホーム連絡会に参加、相互研修や他施設見学会に参加してケアの向上に努めている。今後も継続して、地域の同業者と相互の見学・交流をし、情報交換をしていきたい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 入居前の担当のケアマネジャーさんとも連絡を取り合い、以前の生活を知り安心して過ごして頂けるように本人の意向などを傾聴して居心地の良い雰囲気作りに心がけ、信頼関係を築けるように努めている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が不安に思う事や疑問に思うことを傾聴し、思いを受 け止め、信頼関係を築いていけるように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人家族の希望をもとにして対応している。 必要なサービスは他事業者とも連携を取り行っている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器拭きなど利用者さんで出来 る事は行ってもらうようにしている 一人で行うのではなくみんなで一緒に行ってもらい連帯感や 意欲の引出しにもつながっている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と連絡を取り合い、協力していただける事はお願ひして いる(日用品の購入など) 病院の受診なども出来る範囲でお願ひしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご家族の協力を得ながら馴染みの場所(自宅)などへ帰って 過ごしていただいたりしている 日帰り外出や1泊など自由に設定して頂いている (外部評価) 日々の会話の中から生活歴や要望などを聞き取り、ドライブ 時には自宅周辺に立ち寄れるよう支援しており、近隣住民と 会話をしたりわらびなど山菜と一緒に採りにいったりしてい る。友人や兄弟などの面会も多く、孫などを含め一度に10数 名の親族の訪問があったこともあり、快く対応している。友 人に電話をかけたり取次ぎをしたりするなど、職員は以前か ら関係のある方々との繋がりが途切れないよう心がけてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 外出行事やリビングでのゲーム、洗濯物たたみなどをみんなで一緒に行うことで利用者同士のコミュニケーションを図り、協力し助け合って生活していただけるよう支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されている利用者の方には1週間に1～2回くらいはスタッフが交代でお見舞いに行き状態などを報告している	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者に関わりを持ち、思いや気持ちの変化を逃さずに毎日の記録に書き残すようにしている	
			(外部評価) 利用開始前の事前面接で、職員が聞き取りをしながらアセスメントシートを書き込み、情報を集めるよう努力している。会話が困難で思いを表せない利用者の場合は、家族など周りから情報を得て、職員が意見を出し合い関わりを考えながら、思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人のアセスメントの記録を見て利用者の経歴などを把握し利用者にあったプランを作成し支援している スタッフ全員が理解し情報を共有している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、夕の申し送りで利用者の状態の把握に努めている 体調不良の利用者の方は病院受診や居室で休んでもらったりしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 食事中むせ込みがあり嚥下機能低下がみられる方には水分にトロミをつけたり食べやすい大きさにカットするなど工夫して誤嚥防止に努める介護計画を作成している また食事前の口腔体操を取り入れている	
			(外部評価) 介護支援専門員と利用者毎の担当者が話し合い介護計画を作成している。3か月に1回担当者がモニタリングを行い、就業時間内に参加できる職員で毎月順次カンファレンスを行い、意見を出し合う工夫をしている。カンファレンスに出席できない職員は、話し合われた内容を回覧して必ず目を通せるようにしている。更新時の見直しのほか、状態の変化のある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 歩行状態の悪い利用者さんは日中の歩行状態や痛みのある所等日々の状態を個別記録し情報を共有し、場合によってはT字杖から4点杖に変更したり歩行器を使用したりしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状態急変時の場合は救急車要請したり病院受診の介助を行う 通院状態にある利用者でご家族の都合で付き添いや送迎ができない時は介護タクシーの利用や施設公用車で病院受診介助を行っている 買い物や周辺の散歩などは希望により対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 海が近いので近くの公園で釣りをしている人に釣れた魚を見せて頂いたりして地域の人との会話につなげている 学校の運動会や文化祭、地域の催し物などにも積極的に参加している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診が必要な時は本人や家族と話し合い、かかりつけ医や専 門医に連絡を取り、すぐ受診できる様支援している (外部評価) 嘱託医がかかりつけ医に一本化されており、週2回往診をし て健康管理をしている。特殊な診療科などを要する場合は、 紹介状を利用して他の病院等を受診することとなっている。 利用者の希望するかかりつけ医を継続することも可能である が、受診は家族の同行を基本としており、困難な場合は職員 が受診介助をしたり介護タクシーを利用したりすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に利用者の日常の様子や気づきなど細やかな変化も密に話 し合い健康管理や医療支援につなげている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院する際には安心して治療できる様本人や家族をサポ ートしながら医療機関と連携してスムーズに退院できるよう支 援している	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期支援について、早い段階で家族と話し合い職員全体で 対応方針の共有を図り適切な支援ができるよう取り組んで いる (外部評価) 「終末期まで事業所で暮らし続けたい」と希望されている家 族はあるが、現在までは病院へ転院している状況である。管 理者は医療機関との協力体制など現在条件が揃っていないの で看取りは難しいと考えているが、家族からかなりの協力が 得られるなど、条件が整えば看取りも可能であると希望を 持っている。看取りに関する研修を1回実施しているが、看 取りの指針等は未整備である。	遠方に住んでいる家族や家族の高齢化など、看取りは 避けて通れないと考えられ、勉強会を継続して行い職員 に終末期に関する基本的な理解を促したり、情報収 集などを行い実現可能と考えられる看取りに関するマ ニュアルや指針を作成するなどの取組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に避難訓練や急変時の対応の訓練を行っておりAEDの使い方や心臓マッサージの行い方など全職員が急変時の対応が速やかに出来る様に心がけている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練で日勤帯、夜勤帯それぞれに備えて訓練している 火災発生時マニュアルに沿って消防署との連携を図っている (外部評価) 2か月に1回程度の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。また、事業所の近くには消防署があり、初期消火やAEDの使用法など協力も得ている。「原子力災害避難計画」「地震・津波・防災計画書」等を作成しており、災害発生時の対応方法や避難経路などの表示もしっかりとされている。災害発生時には利用者の避難が確認できるよう、各部屋に木の札で「避難済」とひっくり返せるようにしている。海が近いため、運営推進会議で津波発生時の避難方法を話し合ったり、災害発生時には事業所を地域の避難場所として利用できることを地域住民に伝えている。また、水や食糧などの備蓄品を1週間分と十分な量を確保できている。	隣近所は住宅であり、火災発生時の避難には多くの人の協力が必要となる。消防署から近隣との協力体制作りを行なうようアドバイスももらっているため、避難訓練を近所の方を巻き込み一緒に実施できることを期待したい。また、近隣住民と一緒に実施することで地域住民や職員の防災や避難に関する意識が高まり、事業所に関する理解がより一層深まることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を理解し、その方に合った言葉かけを行っている また、利用者さんの日内変動にも速やかに対応し、言葉かけにも細心の注意を払っている (外部評価) 居室への名前の表示や写真の使用など、個人情報の取り扱いに同意を得られている場合のみ使用している。入浴介助時など利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけている。トイレの介助時には職員が耳元で「トイレはどうですか」など小声で利用者に話しかけるなど、状況に合わせた声かけをする工夫をしている。また、管理者は職員に利用者の名前は名字にさん付けをして呼ぶよう指導している。	
37		○利用者の方の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が話しやすくなるような接し方、声かけを行っており、その方の思いをくみ取れるよう日頃から心がけている 又その方が、本当はどうしたいのか、どう思っているのかを考えて試行錯誤の毎日である	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんの思いや気持ちを尊重し、その方のペースに合わせた関わりを行っている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとり季節に応じた服装になるように家族の方にも家で使っていた服などを持参していただきながら支援している 定期的に散髪も行っている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) アレルギーや嫌いな物などその方に食べられない物がある場合には別メニューを提供している 食器洗いや食器拭きなどが出来る利用者の方には手伝っていただいている (外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、専属の調理員が調理をしている。朝食は夜勤の職員が調理しており、利用者の希望でパン食の対応もしている。土曜と日曜は調理員が休みのため職員が順番で調理している。普通食やきざみ、ミキサー食などの食形態の対応がなされており、アレルギーや魚が食べられない利用者などへの別メニュー対応もしている。調理そのものへの利用者の参加は少ないが、食器洗いや片付けなどできることを手伝っている。食事時には音楽を流し、職員は利用者話しかけながら介助や見守りをしている。また、ベランダでそうめん流しをしたり、外出時に弁当を持って出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量のチェックを行い、体重の増減や健康状態に合わせた支援や刻み食、ミキサー食など一人一人に合った対応をしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけ誘導を行っておりスタッフと共に口腔ケアができています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 尿意、便意の訴えがない利用者さんには、定期誘導を行ない自立されている方には1日1回は排便有無の確認を行っている。夜間の睡眠を妨げないよう尿取りパットも本人の排泄パターンに合った物を使用している。</p> <p>(外部評価) 排泄に関するチェック表を活用し、利用者毎の排泄のリズムを把握し、トイレ誘導など利用者に合わせて排泄支援をしている。昼間は誘導してトイレやポータブルトイレで排泄できるよう努めており、夜間は利用者の睡眠重視の姿勢で臨んでいる。オムツの使用者は1名で、昼間は履くパンツを使用している。また、トイレが自立している利用者も多いが、ズボンの上げられない利用者を察するなどのさりげない対応もしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 自然な排便の為に体操や水分補給等を行い、3日以上排便が確認できない場合は病院より処方されている薬にて対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 体調やその日の気分により入浴を中止する事もあるが週2回の入浴を予定している。入浴時に全身観察や体重測定も行っている。処方されている軟膏塗布も行っている。</p> <p>(外部評価) 週2回、午前中に利用者は入浴することができる。利用者から「ゆっくり入りたい、毎日入りたい」などの希望があれば、対応するよう努めている。リフトを使用して入浴できる環境が整っており、大小2か所の浴槽やシャワーを状況に応じて使い分けている。浴槽の縁はヒノキで気持ちよく、浴室の床材はコルクとなっており、利用者や職員がすべりにくいよう工夫された構造となっている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず日に改めたりするなどの対応で週2回入れるよう努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中希望時には居室にて休んで頂いている。本人のリズムで居室に戻られ経過される方もおられ様子観察を行っている。夜間帯はその日によって変化はあるもほぼ良眠されており浅眠の方に対しては補水を促したり、声掛けを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬手帳などで服薬状態を確認している 薬の変更時は職員連絡ノートに目的や副作用を記載し、また申し送りをして確認する 利用者さんの症状の変化に留意し定期的に主治医と連絡を取りながら服薬、調節を行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭き、洗濯物干し、たたみ、手芸などの手伝いをお願いした後は感謝の気持ちを伝え本人の意欲につながるよう努めている 地域交流スペースで地域の方やボランティアの方の訪問など取り入れて季節の行事、利用者本人の希望に合わせて外出の支援など行っている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ気分転換を図れるように散歩や外出を支援している ご家族の要望により外出や外泊時、荷物の準備など協力している（自宅に帰りたい、教会に行きたい、海が見たい、など） (外部評価) 利用者から買い物や散歩等の希望が多く、事業所周辺や公園、海岸などへ散歩したりドライブをしてスーパーなどに買い物したりできるよう支援している。地域の行事に参加したり、隣接する長浜高校の水族館などに出かけることもある。弁当を持って出かけ、気分転換を図ることもある。少人数での外出にも取り組んでおり、利用者が公平に外出できるようにしている。また、家族の協力で外出をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出して買い物される時には、自分で財布を持っていただき自分で代金を支払い、お釣りも受け取るように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 気兼ねなく家族に電話したりできる雰囲気作りを行い、希望に応じて家族に取り次ぎをしている また希望に応じて手紙やはがきをポストに入れに行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用生活空間は居心地良く安心して過ごせるように工夫し配慮している 行事の時や季節に合った壁画を利用者の方と一緒に作ったりと楽しく安心して生活が出来る様にと努めている</p> <p>(外部評価) 共有スペースは木造で木の梁が見え、節分など月毎に飾りつけを変えたりテーブルには季節の草花を飾ったりするなど、季節を感じる事ができる。壁には利用者が作った俳句も掛けられている。ソファと食堂のいすがくつろげる場所となっており、ソファに座りテレビを見ている利用者も多い。天気の良い日にはウッドデッキに出て外気浴をすることもできる。地域交流スペースがあり、地域の様々な催し物を開催するなど有効に活用されている。訪問調査日には庭に植えている梅が満開で、利用者や訪問者の目を楽しませてくれた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人が嫌な気持ちにならない様に席を変えたり安心して笑顔で生活できるように心がけている</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者本人や家族の方と話し合いながら家で使い慣れた物などを持って来てもらい部屋に置くことによって安心し落ち着いて過ごして頂けるよう心がけている</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、タンスが備え付けられている。家で使い慣れた鏡台や机、いすなどを持ち込み、家族の写真を飾るなど、居心地良い空間作りをしている。居室は広く感じられ、落ち着いた色合いの部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 体調を見ながら平行棒を使って立位訓練や歩行練習、歩幅を保つ練習などを行っている。 用事のある時やトイレの済んだ時にはマラカスを鳴らしてスタッフを呼んで頂く。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700085
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム 春の風
所在地	大洲市長浜甲570番地
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流室「ひだまり」にて地域の方やボランティアの方と利用者の方の交流で変化のない生活に刺激を受けることができる
機能訓練体操を行い個人の能力を引き出して向上につなげている
最後までお風呂に入ることができる機械浴を備えている
「ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある」の理念のもと全職員が笑顔で実践につとめている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長浜高校横の住宅街にある事業所の近くには市役所支所や保健センター、消防署、商店街などがあり利便性に優れている。海も近く、事業所の窓から海の絶景や高校のグラウンドでスポーツをする様子を眺めることができる。平成26年3月に開設した1年目の事業所は、地域交流スペースを活用して、地域住民やボランティア等との交流を盛んに行っている。管理者や職員は明るく活気のある事業所を目指し、家庭的な雰囲気を大切に、普段の声かけを丁寧に行ったりする取組を日々実践している。職場全体が明るく、レクリエーションなどで利用者から歓声が上がると楽しく、安心して過ごせる雰囲気作りをしている。利用者には歩行訓練や立ち上がりのリハビリ、フットケア、公文式の学習療法を取り入れている。また、近くにあるグループホーム等との交流があり、地域内のグループホーム同士での見学など研修にも取り組みサービスの向上に努めており、これからの発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム春の風

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 樋口 めぐみ

評価完了日

平成 27 年 1 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設内に理念を提示していく事で意思統一を図っている。又理念である「ぬくもり、喜び、笑顔には」利用者さんに対する思いが込められています。施設が孤立することなく共存していくために「春の風」の特徴でもある交流スペースを通して理念が浸透していけるよう今後も努力していきます。</p> <p>(外部評価) 「ここにはぬくもりがあり、喜びがあり、笑顔がある」という誰にも分かりやすい基本理念を開設時に作成している。理念は玄関や地域交流スペースなどに大きく表示しており、職員は日々確認することができる。また、管理者と職員は利用者への普段の声かけや関わりを丁寧に行うなど、理念の実現に向けて職員一丸となり取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との交流を深める為「地域交流スペース」を設けており、1か月4回平均ぐらい利用があります。内容としては地元近辺のサロンの活用・ボランティアの歌・演奏・読み聞かせ・紙芝居又は学童保育・高校生のサークル等々多岐にわたり、利用者及びスタッフ共に参加して楽しく充実した時間を過ごしていただいております。</p> <p>(外部評価) 事業所の地域交流スペースは地域住民に認知されており、サロンや読み聞かせなどのボランティア、児童保育、高校生のサークル活動など幅広く利用されており、利用者と職員も一緒に参加することも多く、地域住民との交流を深めている。利用者が事業所周辺を散歩する時にも挨拶をするなど、日常的な交流も行われている。高校生のインターンシップを受け入れたり、事業所の隣にある長浜高校の運動会や文化祭、水族館を見学に行くなど、相互に交流をしている。また、事業所のことを含め法人では定期的に広報誌を発行しており、地域住民へも配布し活動を周知している。</p>	地域交流スペースを活用した地域住民への情報提供が重要であり、認知症に関する勉強会の開催やパンフレット等を置くなどの情報発信にも役立てていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者の方々のサロンによる交流スペース利用時に施設案内や見学を通じ広く知って頂いています。又、利用者との交流も積極的に図っており、認知症の方々とのふれあいの中から理解を深めて頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、現状・活動報告やヒヤリハット報告等を通じて外部の方々から地元ならではの貴重なご意見を頂き、参考にさせて頂いたり、秋祭りやイベントなどの情報をいただき、今後の活動につなげていく様努力しております。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は年6回開催され、活動報告や地域交流スペースの利用状況、ヒヤリハットの報告、参加者からの意見を求めるなど運営の透明性や情報の公開に努め、意見をいただく形が整えられている。会議には利用者や家族、民生委員、婦人会長、市担当者等の多くの参加が得られている。警察からの特殊詐欺や消防署の脱水症などの話を、会議と合わせて行う工夫をしている。また、同時期にできたグループホームと協力し合い、相互の運営推進会議に参加するなどの取組みもしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議の時に利用者さんの状況などを報告し、助言を得ている。なお不明な点は電話などで相談して解決している。</p> <p>(外部評価) 市高齢福祉課に介護保険制度など分からないことを尋ねたり通知事項を確認したりしている。生活保護の担当者と連絡を取り相談をすることもある。大洲市にはグループホーム連絡会があり、研修会に参加したり順番での事業所内の見学、相互の情報交換などの交流をしている。また、平成27年4月から介護相談員の受け入れを予定している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行い拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望のある時は散歩に出たりして対応している。安全の為に一部施錠している。</p> <p>(外部評価) 事業所では拘束をしない方針で、法人で作成した身体拘束に関する資料を回覧することで勉強を重ねている。声かけにも配慮し、利用者の見守りを徹底することで気分を落ち着かせるなどの対応もなされている。玄関は夜間や必要時に施錠しており、利用者の安全性の確保に努めている。荷物をまとめるなど帰宅願望のある利用者には、散歩を一緒に行うなどの対応をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修にて虐待について学んでいる。虐待を見逃さないよう注意を払って虐待を防止していきたい。言葉の虐待についても注意していきたい。 外部研修にも参加していきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について学ぶ機会があれば積極的に参加して学ぶ機会をもつようになっている。成年後見制度は現在1名(1階ユニット)の利用者が利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に担当(管理者)が丁寧に説明を行い同意を得ている。不安や疑問に答えたり契約の前に施設見学して頂いたりする。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時にご意見や要望など聞かせて頂き、家族同士で話ができるような場を作る。入所契約時に重要事項説明書に外部への意見などが発信ができるように記載していることを説明する。	
			(外部評価) 意見箱の設置はないが、面会時には職員から家族に声をかけたり、電話で意見をもらったりするなど、意見を聞くよう努めている。家族会が組織されており、家族の集まりの中で出された要望などを聞き、意見は連絡ノート等を活用して職員間で共有をして、利用者への関わり方の改善ができるように検討して対応している。また、ひだまり新聞を毎月発行しており、職員が一筆添えて送付している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回法人全体の職員会での意見交換。朝、夕の申し送りで情報を共有し、提案を聞き話し合っ改善へとつなげている。申し送り以外でも、都度意見を聞き対応している。 (外部評価) 毎月の職員会や毎朝夕の申し送りなどで職員から意見を聞き、備品の購入や仕事の流れ、利用者への関わり方などを改善することに繋がっている。意見を出しやすい雰囲気づくりができており、管理者は職員から意見を聞くことを常に心がけている。新人職員には法人として実施している新人研修のほか、ベテラン職員の指導やレポート提出でのやりとりを行う教育システムがあり、職員も外部研修や別の事業所を知る相互研修などに参加することができる。また、職員は業務管理シートを使用し目標を立て、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業計画に基づき業務管理シートを作成し各スタッフが個人目標を立てている。目標に対ししっかりと業務が出来たかを人事考課表で評価。就業規則の見直しをして職場環境の改善を図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加の申し込み用紙を回覧し、地域密着型サービス協会や市の研修への参加、その他研修への参加を声掛けを行って促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県や市のグループホーム連絡会に加盟しており、相互研修、他施設見学に参加してケアの向上に努めている。運営推進会議で一月ごとに互いに訪問しあって交流を深めサービス向上に取り組んでいる	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に担当されていたケアマネージャーとも連絡を取り合い、安心して過ごして頂けるよう本人の意向などを傾聴して話がしやすい雰囲気作りに心がけ信頼関係を築けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が困っていることや不安に思っていることを聞き受け止 めながら信頼関係を築くように努め、支援を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人・家族の要望を基に出来る限りの対応を行っている。利 用者も徐々にここでの生活に馴染み安心して過ごされてい る。他のサービスも必要であれば家族と話し合いながら行っ ていきたい。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者が出来る事は行ってもらい（洗濯たたみなど）職員も 助かっていることをお伝えすると、率先して頂けるよう になった。不穏状態にある時は時間をかけて話を聞き何が不 満なのか解ろうと努力をしている。心身とも安定した生活が 送れるように支援を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 支援している中で、家族に協力してもらえることは連絡をし て協力をお願いし、家族と共に支えになれるように支援して いる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 日々の中の会話からどのような生活、人間関係を築いてきた かを把握し、家族の協力を得ながら、出掛けるなどの支援を 行っていきたい。 (外部評価) 日々の会話の中から生活歴や要望などを聞き取り、ドライブ 時には自宅周辺に立ち寄れるよう支援しており、近隣住民と 会話をしたりわらびなど山菜と一緒に採りにいったりしてい る。友人や兄弟などの面会も多く、孫などを含め一度に10数 名の親族の訪問があったこともあり、快く対応している。友 人に電話をかけたり取次ぎをしたりするなど、職員は以前か ら関係のある方々との繋がりが途切れないよう心がけてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ゲームや職員が間に入っでの会話をもち、笑顔で話せる場を持つ。利用者同士の関係を図り、協力し生活していただけるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院している利用者の方には、職員がお見舞いに行き家族の話をお聞きし、状態などをミーティングで報告している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で利用者との関わりを持ち思いや変化をのがさず毎日記録に残しており、思いがわかりにくい利用者に対しては、職員で話し合い意見を出し合って意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用開始前の事前面接で、職員が聞き取りをしながらアセスメントシートを書き込み、情報を集めるよう努力している。会話が困難で思いを表せない利用者の場合は、家族など周りから情報を得て、職員が意見を出し合い関わりを考えながら、思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人の記録物に目を通し利用者の経緯を把握し、職員全員が理解し共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りで利用者の状態は把握できている。出来ることは時間がかかっても本人に無理がいかないようしてもらい、身体機能が落ちないように支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 嚥下機能低下がみられる方には、ミキサ食ーやきざみ食軟飯にしたりと工夫し、誤嚥防止に即した介護計画を作成、口腔体操を行っている。身体機能の低下がみられる方には平行棒を使って歩行訓練やイージーウォークを使って足の運動を行っている。 (外部評価) 介護支援専門員と利用者毎の担当者が話し合い介護計画を作成している。3か月に1回担当者がモニタリングを行い、就業時間内に参加できる職員で毎月順次カンファレンスを行い、意見を出し合う工夫をしている。カンファレンスに出席できない職員は、話し合われた内容を回覧して必ず目を通せるようにしている。更新時の見直しのほか、状態の変化のある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を個別に記録を行い気づいたことも記録に落とし、職員間での共有を行い、月1回職員会を開いて意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 急変時の受診介助を行っている。 通院の歯医者などへは家族が行って下さる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のイベント等に参加している。運動会や文化祭の見学。当施設の地域交流スペースを利用する方との交流。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診が必要な時は本人や家族と話し合いかかりつけ医や専門 医に連絡をとり、すぐ受診できるよう支援している。 (外部評価) 嘱託医がかかりつけ医に一本化されており、週2回往診をし て健康管理をしている。特殊な診療科などを要する場合は、 紹介状を利用して他の病院等を受診することとなっている。 利用者の希望するかかりつけ医を継続することも可能である が、受診は家族の同行を基本としており、困難な場合は職員 が受診介助をしたり介護タクシーを利用したりすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に利用者の様子や気づきなど細やかな変化も密に話し合い 健康管理や医療支援につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院するには安心して治療できるよう、本人や家族をサ ポートしながら医療機関と連携を図り、スムーズに退院でき るよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で家族と看護師との話し合いをし、家族の意向を聞き 事業所の対応や方針の共有を図り、家族やかかりつけ医との 連携を図りながら支援していく。 (外部評価) 「終末期まで事業所で暮らし続けたい」と希望されている家 族はいるが、現在までは病院へ転院している状況である。管 理者は医療機関との協力体制など現在条件が揃っていないの で看取りは難しいと考えているが、家族からかなりの協力が 得られるなど、条件が整えば看取りも可能であると希望を 持っている。看取りに関する研修を1回実施しているが、看 取りの指針等は未整備である。	遠方に住んでいる家族や家族の高齢化など、看取りは 避けて通れないと考えられ、勉強会を継続して行い職員 に終末期に関する基本的な理解を促したり、情報収 集などを行い実現可能と考えられる看取りに関するマ ニュアルや指針を作成するなどの取組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に避難訓練や急変時の訓練を行っており、AEDの使い方、心臓マッサージの行い方、夜間帯想定での避難訓練など職員全員が急変時の対応が速やかにできる様心がけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っており、日勤、夜勤帯の災害に備えている。火災発生時にはマニュアルに沿って地域の消防署との協力体制を築けている。 (外部評価) 2か月に1回程度の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。また、事業所の近くには消防署があり、初期消火やAEDの使用など協力も得ている。「原子力災害避難計画」「地震・津波・防災計画書」等を作成しており、災害発生時の対応方法や避難経路などの表示もしっかりとなされている。災害発生時には利用者の避難が確認できるよう、各部屋に木の札で「避難済」とひっくり返せるようにしている。海が近いため、運営推進会議で津波発生時の避難方法を話し合ったり、災害発生時には事業所を地域の避難場所として利用できることを地域住民に伝えている。また、水や食糧などの備蓄品を1週間分と十分な量を確保できている。	隣近所は住宅であり、火災発生時の避難には多くの人の協力が必要となる。消防署から近隣との協力体制作りを行なうようアドバイスももらっているため、避難訓練を近所の方を巻き込み一緒に実施できることを期待したい。また、近隣住民と一緒に実施することで地域住民や職員の防災や避難に関する意識が高まり、事業所に関する理解がより一層深まることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の性格を理解し、個々に合わせた声かけを行っている。又、その日の機嫌にも気分が左右される為、言葉かけに配慮を行っている。 (外部評価) 居室への名前の表示や写真の使用など、個人情報の取り扱いに同意を得られている場合のみ使用している。入浴介助時など利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけている。トイレの介助時には職員が耳元で「トイレはどうですか」など小声で利用者に話しかけるなど、状況に合わせた声かけをする工夫をしている。また、管理者は職員に利用者の名前は名字にさん付けをして呼ぶよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が話しやすい接し方や声かけを心がけ、思いや希望をくみとれる様接している。 本人の思いは実際にはどうなのかを考えながら、対応している毎日である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の思いや気持ちを尊重し、その方のペースにあった関わりを行い、出来る限り希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服装をして頂けるように家族の方にも協力を得ながら支援している。定期的に施設内での散髪を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べられない物がある場合には別メニューを提供して対応している。 じゃが芋の皮むきやテーブル拭きなどを手伝って頂いている。 (外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、専属の調理員が調理をしている。朝食は夜勤の職員が調理しており、利用者の希望でパン食の対応もしている。土曜と日曜は調理員が休みのため職員が順番で調理している。普通食やきざみ、ミキサー食などの食形態の対応がなされており、アレルギーや魚が食べられない利用者などへの別メニュー対応もしている。調理そのものへの利用者の参加は少ないが、食器洗いや片付けなどできることを手伝っている。食事時には音楽を流し、職員は利用者話しかけながら介助や見守りを行っている。また、ベランダでそうめん流しをしたり、外出時に弁当を持って出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事を何故食べられないかを考え、ご飯をおにぎりにしたり、ミキサー食など一人一人に合った食事を提供し、体重増加傾向にある方には、コーヒーの砂糖をカロリーカットの分を使用している。食事、水分量は毎食チェックを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア。義歯洗浄を行う。自分で出来る方には、声かけにて自分でうがい義歯洗浄をして頂く。週2回ポリデント洗浄を行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 尿意便意の訴えない方へは定時誘導を行っている 自立されている方は1日1回は排便の有無の確認を行っている。 夜間のみオムツ対応の方には羞恥心を傷付けないように配慮している。	
			<p>(外部評価)</p> 排泄に関するチェック表を活用し、利用者毎の排泄のリズムを把握し、トイレ誘導など利用者に合わせて排泄支援をしている。昼間は誘導してトイレやポータブルトイレで排泄できるよう努めており、夜間は利用者の睡眠重視の姿勢で臨んでいる。オムツの使用者は1名で、昼間は履くパンツを使用している。また、トイレが自立している利用者も多いが、ズボンの上げられない利用者を察するなどのさりげない対応もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 自然排便を促すために軽度な運動（体操や室内歩行）などを行い補水もこまめに行っている。 3日以上排便が確認できない場合は、センナ茶を飲用してもらい排便を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 週2回の入浴日を予定し、体重測定も行っている。 拒否のある方には無理強いをせず体調確認を行い再度声かけするかそれでも拒否のある時は中止し、翌日入浴してもらうよう声掛けを行っている。 洗身時に皮膚状態の確認を行い、処方されている軟膏の塗布や保湿剤を塗布し乾燥しないようにしている。	
			<p>(外部評価)</p> 週2回、午前中に利用者は入浴することができる。利用者から「ゆっくり入りたい、毎日入りたい」などの希望があれば、対応するよう努めている。リフトを使用して入浴できる環境が整っており、大小2か所の浴槽やシャワーを状況に応じて使い分けている。浴槽の縁はヒノキで気持ちよく、浴室の床材はコルクとなっており、利用者や職員がすべりにくいよう工夫された構造となっている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いをせずに日を改めたりするなどの対応で週2回入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 日中でも希望時には居室にて休んでいただいているが、昼夜逆転しないよう配慮を行っている。 夜間トイレや朝と間違えて起き立とうとされる方にはセンサーを置き、ポータブルトイレ誘導を行ったり、転倒の無い様センサーが鳴ったらすぐに訪室できるよう配慮を行い、安心して眠れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬手帳で服薬状態を確認している。薬の変更時には職員連絡ノートに効能や副作用を記載し確認する。利用者の状態の変化に留意し、主治医や薬剤師との連携をとりながら服薬調節に活かしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみの手伝いなどをしてもらい、感謝の気持ちを伝え本人の意欲につながるよう支援している。地域の方との交流やボランティアの方訪問、季節の行事や外出の計画を立て、楽しんでもらい気分転換してもらうよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候や天気の良い時には、歩いて散歩に出掛けたり、弁当を持って花を見に出かけたり、海を見に行ったりと気分転換が図れるよう支援している。 (外部評価) 利用者から買い物や散歩等の希望が多く、事業所周辺や公園、海岸などへ散歩したりドライブをしてスーパーなどに買い物したりできるよう支援している。地域の行事に参加したり、隣接する長浜高校の水族館などに出かけることもある。弁当を持って出かけ、気分転換を図ることもある。少人数での外出にも取り組んでおり、利用者が公平に外出できるようにしている。また、家族の協力で外出をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出されたり、買い物の際に自分で支払いが出来るよう援助を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が家族に電話をしたいとのことであれば、要望に応じて取り次ぎを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 年中行事等、季節にあった壁画を利用者の方と一緒に作り上げ楽しく安心して生活できるようにと考えています。共用の空間は快適に過ごせるように日光や風などにも配慮しています。</p> <p>(外部評価) 共有スペースは木造で木の梁が見え、節分など月毎に飾りつけを変えたりテーブルには季節の草花を飾ったりするなど、季節を感じる事ができる。壁には利用者が作った俳句も掛けられている。ソファと食堂のいすがくつろげる場所となっており、ソファに座りテレビを見ている利用者も多い。天気の良い日にはウッドデッキに出て外気浴をすることもできる。地域交流スペースがあり、地域の様々な催し物を開催するなど有効に活用されている。訪問調査日には庭に植えている梅が満開で、利用者や訪問者の目を楽しませてくれた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人が嫌な気持ちにならないように、食事席を変えたり安心して笑顔で生活できるよう心がけています。ソファでの座る位置にも配慮しています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者本人や家族と話し合いながら、居室には家で使い慣れた物を持ってきてもらい、本人が安心して過ごして頂けるよう心がけています。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、タンスが備え付けられている。家で使い慣れた鏡台や机、いすなどを持ち込み、家族の写真を飾るなど、居心地良い空間作りをしている。居室は広く感じられ、落ち着いた色合いの部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ扉には大きな字で「トイレ」と表示し、わかりやすくしている。手すりを持って出来ることはして頂き、安全に残存機能を活かした介助を行っている。</p>	